

ノーベルバル静注用250mg

【この薬は？】

販売名	ノーベルバル静注用250mg NOBELBAR 250mg for Injection
一般名	フェノバルビタールナトリウム
含有量 (1バイアル中)	フェノバルビタールナトリウム274mg (フェノバルビタールとして250mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗てんかん剤で、バルビツール酸誘導体と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳の過剰な興奮をはずめて、てんかん発作を抑えるはたらきがあります。
- ・次の病気の人に医療機関で使用されます。
 - ・ **新生児けいれん**
 - ・ **てんかん重積状態**

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にノーベルバル静注用に含まれる成分やバルビツール酸系化合物（バルビツール酸誘導体）で過敏症のあった人
 - ・急性間欠性ポルフィリン症の人
 - ・ポリコナゾール、タダラフィル（肺高血圧症を適応とする場合）、マシテンタン、エルバスビル、グラゾプレビル、チカグレロル、アルテメテル・ルメファントリン、ダルナビル・コビシスタット、ドラビリン、リルピピリン、イサブコナゾニウム硫酸塩、ミフェプリストン・ミソプロストール、ニルマトレルビル・リトナビル、リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、ソホスブビル・ベルパタスビル、ドルテグラビル・リルピピリン、カボテグラビルを使用している人。
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・虚弱者、呼吸機能の低下している人
 - ・頭部外傷後遺症または進行した動脈硬化症の人
 - ・心臓に障害のある人
 - ・アルコール中毒のある人
 - ・薬物依存の傾向または過去に薬物依存のあった人
 - ・重篤な神経症の人
 - ・甲状腺機能低下症の人
 - ・腎臓に障害のある人、肝臓に障害のある人
 - ・妊娠または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- この薬には併用してはいけない薬 [ポリコナゾール（ブイフェンド）、タダラフィル（肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ）、マシテンタン（オプスミット）、エルバスビル（エレルサ）、グラゾプレビル（グラジナ）、チカグレロル（ブリリンタ）、アルテメテル・ルメファントリン（リアメット配合錠）、ダルナビル・コビシスタット（プレジコビックス配合錠）、ドラビリン（ピフェルトロ）、リルピピリン（エジュラント）、イサブコナゾニウム硫酸塩（クレセンバ）、ミフェプリストン・ミソプロストール（メフィーゴ）、ニルマトレルビル・リトナビル（パキロビッド）、リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン（オデフシィ配合錠）、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（ビクタルビ配合錠）、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（シムツーザ配合錠）、エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（ゲンボイヤ配合錠）、ソホスブビル・ベルパタスビル（エプクルーサ配合錠）、ドルテグラビル・リルピピリン（ジ

ヤルカ配合錠)、カボテグラビル(ボカブリア)] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

使用量、使用回数、使用方法は、あなたの体重や症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- この薬を続けて使用している場合に、急に薬を減量したり、使用を中止したりすると、てんかん発作をくりかえし、なかなか回復しない状態（てんかん重積状態）があらわれることがあります。この薬の使用を中止する場合には徐々に減量されます。特に高齢の人、虚弱の人が使用する場合には注意が必要です。
- この薬の使用中は、定期的に肝機能検査、腎機能検査、血液検査が行われることがあります。
- 眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下が起こることがあるので、この薬を使用中は自動車の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないようにしてください。
- アルコール飲料、セイヨウオトギリソウを含有する食品はこの薬に影響しますので、控えてください。
- 妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- 授乳中の方は、授乳を避けてください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用中であることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください。重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。


重大な副作用	主な自覚症状
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう (トキシック・エビダーマル・ネクロリシス: テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
紅皮症 (剥脱性皮膚炎) こうひしょう (はくだつせいひふえん)	ほぼ全身の皮膚が発赤する、発熱をしばしば伴う、しばしばフケのようなものがはがれ落ちる
過敏症症候群 かびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節 (首、わきの下、股の付け根など) のはれ
依存性 いぞんせい	ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、手足のふるえ、発汗、幻覚、不眠
顆粒球減少 かりゅうきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
呼吸抑制 こきゅうよくせい	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。

これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、発熱をしばしば伴う、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、発汗、突然の高熱、寒気、出血が止まりにくい、疲れやすい、力が入らない
頭部	しばしばフケのようなものがはがれ落ちる、ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、不眠、幻覚
顔面	鼻血
眼	目の充血やただれ
口や喉	唇や口内のただれ、喉の痛み、歯ぐきからの出血、吐き気
胸部	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
腹部	食欲不振
手・足	手足のふるえ
皮膚	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、ほぼ全身の皮膚が発赤する、皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、あおあざができる

【この薬の形は？】

性状	白色の塊または粉末 (凍結乾燥注射剤)
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	フェノバルビタールナトリウム
添加剤	なし

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ノーベルファーマ株式会社

(<https://www.nobelpharma.co.jp>)

カスタマーセンター

電話：0120-003-140

受付時間：9時～18時

(土、日、祝日および当社休日を除く)